

工房信州の家
平屋実例集



みつかる、 自分らしい平屋暮らし

庭とつながり、季節の移ろいを感じながら、信州の暮らしを存分に楽しむ「工房信州の家・平屋スタイル」

長野県産材をふんだんに使い、木のぬくもりに包まれる空間や、ワンフロアの暮らしやすさと広がりを感じるプランニングが、より豊かな平屋暮らしを実現します。

自分らしさが叶う、自由設計だからこそそのデザイン力で、あなただけの平屋スタイルを一緒に作りませんか？

contents

- 01 グレーカラーのバルのような平屋
- 02 Barのある家
- 03 伊那谷の暮らしと景色に調和する家
- 04 余白の家
- 05 キャンプするように人生を遊ぶ
- 06 八ヶ岳の森に暮らす
- 07 田園にひらく家

Home with a Story 01

- 家づくりを物語に -



[千曲市/S様邸]

グレーカラーの、バルのような平屋

本来の質感を大切に。経年変化も愛おしめるよう、ひとつずつ丁寧に選んだ素材。
こだわり抜いた空間で、お酒を手に仲間と過ごす時間は格別。

天井は唐松の小幅板を全面に。
赤みが増す経年変化も楽しめる。

テーマカラーはグレー。
背面はグレーの板張り。モール
テックスで仕上げたキッチン。

土間とフロアの段差は50mm。
シンプルでクールな印象のコン
クリート仕上げ。





フルオープンサッシを取り入れ、リビング・土間サロン・ウッドデッキがほぼフラットになる。サッシは戸締りにしめるのでスッキリした印象に。[上]土間サロンの一角は、趣味の洋盆栽のための空間。窓を大きく元を取込みつつ、壁もしっかり計画。[下]

シンプルな平屋の外観。グレーの塗り壁に、ブラックの窓枠がアクセントに。家サイズや位置にもこだわりのスタイリッシュな印象。(上)
土間サロンに置いた客ストーブは、アイアンドッグ No.7。開口部に近く薪燃焼も楽勝。(中)
玄関で家族を出迎えるペンダントライトは真鍮製。鎌倉の作家作品で、工房を訪ねオーダーしたこだわりのもの。キッチン、トイレにも同作家の照明を選んだ。(下)



owner's voice

結婚を機に、まず住宅展示場を見てみようとい軒目に入ったのが工房信州の長野古牧展示場。初めての見学なのに、この時点で心が決まりました。ホンモノ感があり、美しい素材の組み合わせで成り立つ空間に一目ぼれでした。

土地探しからの家づくりでしたが、今のゆとりある土地に出会い、2階建ての必要性がなくなったのが平屋にした一番の理由です。ワンフロアで動線に無駄がなく、ロボット掃除機がいらなくらいに掃除が楽なのも嬉しいですね。

その分土間サロンを広めに取り、一角を洋盆栽コーナーにしました。ベストな採光のために窓のサイズや軒の長さを計算したり、照明機材を随しつつ空間に一体感が出るよう、キッチンの間に仕切り壁を設けたりしました。とことんこだわった土間サロンです。

二人とも料理とお酒が好きなので、キッチンに立ちながらお酒を楽しめるよう計画しました。ワイングラスやボトルのディスプレイも楽しんでいます。

素材本来の質感を大切に。工房信州の家が使う自然素材と私たちが目指す家づくりがマッチしてできた空間に、満足しています。





初めて展示場を見た時から、土間ケロンに洋盆栽を置くイメージが持てたという。今では同じ趣味の仲間を招いて、手をかけた洋盆栽を眺めながらお酒を飲むのが至福の時間、と話してくれた。

竣工 2025年3月
敷地面積 499㎡（148坪）
延床面積 102㎡（31坪）
家族構成 夫婦・息子3人

Home with a Story 02

- 家づくりを物語に -



〔上田市／M様邸〕

Barのある家

お気に入りのクラフトジンが並ぶBarのような住まい。
こだわりの空間を眺めながら飲む至福の時間。
夫婦だけの楽しみは、気付くと仲間を招く楽しみに。

ダイニングキッチン天井は
無節のスギ板張り

「けいそうモダンコート」のヒキ
ズリ仕上げ。間接照明により陰影
が浮かび出す

カウンターは奥行きを広めに
とり食事や作業もしやすい





ご主人の書斎は廻轉子でリビングとはよく区切った。一部タイル貼りの壁が空間のアクセントに。壁の裏側は可動式の半導体計画。[上]
 キッチンの落ち着きのある空間と対照的に、リビングは庭園土の白を基調に。光もたっぷり入る明るい空間。ロフトをつくり天井高を高めることで、平屋でも吹き抜けのような開放感がある。[下]



軒天は、ケイカル板のダークグレー仕上げ。外壁とポーチタイルの色を統一したことで、玄関周りの板張り感がアクセントとなっている。(左上)

リビングと繋がるウッドデッキで過ごすことも多い。3時間かけて焼製したり、BBQも楽しむ。朝起きて一番にウッドデッキに出て空を眺めるのが日課。早朝はより空に近い暮らしができる。(右上)

シンプルなデザインの玄関も、ペンダントライトで個性的な印象に。(下)





奥様の書斎は個室に、好きなものに囲まれる自分だけの空間。北西の位置だが、窓を大きく取り自然光で明るい。(上)

平屋でも雨ちあけるよう、寝室は道路から一番遠いところに配置した。ウッドデッキにもつながるので、毎朝起床後はデッキに出て外の空気を吸い込むのが日課。(中)

浴槽の洗面コーナー。水はねが気になる部分はタイル貼りとした。上屋の窓サッシから光が入り、明るく清潔感のある空間に。(下)



owner's voice

一生に一度の家づくりは、自分たちが満足いくデザインの家にした、と思っていました。

夫婦2人なので、コンパクトで将来的にも快適に暮らせるように平屋を考えていました。

私たちはジンやウイスキーなどおいしいお酒をじっくり味わうのが好きで、Barのような雰囲気キッチンを目指し、ひきずり仕上げの塗壁に、お気に入りのボトルを並べる棚、そこに間接照明を計画しました。

2人で料理をしたり、お酒を飲む時間を大切にすると同じくらい、1人の時間に没頭できる空間づくりも重視しました。夫は縦格子でリビングとゆるくつながる書斎に。私は好きなものに囲まれる自分だけの個室書斎に。夫婦それぞれの個性ある空間ができたと思います。

我が家の象徴のようなキッチン空間は、その眺めをつまみに飲めるほど気に入っています。

ただ、自分たちで楽しむ以上に家に来てくれた人にもこの時間を味わってもらいたい、最近そんな気持ちが湧いてきてるのは大きな変化かな、と思います。





造作のキッチン収納の天板にもお気に入りのツールが並び、作業スペースとしても活用。家を建てたことで、夫婦だけでお酒を楽しむ以上に、来客にこの空間でくつろいでいって欲しいと思うようになった、と話してくれた。

竣工 2022年12月
敷地面積 317㎡（約48坪）
延床面積 81㎡（約24坪）
家族構成 夫婦

Home with a Story 03

- 家づくりを物語に -



[高森町／F様邸]

伊那谷の暮らしと景色に調和する家

田舎暮らしをするなら、その土地に馴染む家にしたいと思う。

家を外に向かって開き、故郷の人と風土とつながる工夫を。

その佇みは、今もいいし、半世紀先もきっとここに馴染んでいそう。

天井はスギ板張り。ダイナミックに
梁を現したウッディデザイン。

カウンター収納は大工による手作り。
大切なお酒や食器を見せる収納。

床は長野県産のカラマツ。
節が少ないものを選んだ。



マストだった薪ストーブの赤がアクセントに。これに合わせて伊台のレンガを調出し、ギャップもあつらえた。「階段がなく、まっすぐでシンプルな動線が使いやすい」と奥様が話す。[上]
ダイニング横の和室はゲストルームとしても使う。モダンであり和の折り目正しでもある。つり梁の下の空からは暖く風が入り、置心地よい。[下]

リビングの一角を書斎に。こもる感覚で、仕事や読書に集中できる。壁には「ひとてま工房」で稲盛土まじりに挑戦した記念の、家族の平形。(上)
 子ども部屋には、引き戸収納の物にロフト収納を設け、平屋の小屋空間を有効活用。子どもには秘密基地みたいで楽しい。(中)
 柱の一つに、以前アパートで使っていた身長計を取り付けてもらった。娘さんの成長記録がこの家でも引き継がれた。(下)



owner's voice

この土地は元々、祖父の家や蔵があった場所でした。せっかく田舎に住むのだから、伊部谷の暮らしや景色と調和する家にしたい。私たちが家づくりで一番大切にしたことでした。山里の風景に馴染むよう平屋建てで、切妻屋根の傾斜や厚み、軒の出方までこだわりました。平屋だからこそを実現した。階段がないまっすぐでシンプルな動線も使いやすく。家事や子育てもラクにしてくれています。

LDKから子ども部屋、寝室までつながれた長いウッドデッキは、各部屋をつなぐ外廊下のようにあり、軒つきの縁廊のようでもあります。農業が忙しい時期には、両親が田仕事の合間に休憩しに來ますし、実家の猫も散歩していく。オープンなスペースになりました。ご近所さんたちとちょっと話すのには、玄関脇の土間サロンが使い勝手が良い。故郷の人とつながる暮らしが出来るのも、家を外に開く工夫をしたからだと思います。



切妻屋根の平屋が、両信州の山並みの景色によく似合う。傾斜、材の厚み、軒の出方など、屋根にはご主人が細部までこだわった。(上)
 隅たまりが心地よいリビングは、フルオープンサッシを介し、ウッドデッキや屋外へと緩やかにつながる。(中)
 リビング入口には家族用の本棚を設けた。お子様の絵本や、仕事関係の本などたっぷり収まる大容量。(下)





日当たり良くコンパクトにまとまった土間サロンは、新聞や本を片手に、ひとり時間を過ごすのにもピッタリ。玄關脇の配置は、回転板をもってきたご近所さんと、ちょっと話すのにもちょうどいい。

竣工 2018年7月
敷地面積 479㎡ (345坪)
延床面積 114㎡ (34坪)
家族構成 夫婦・娘さん

Home with a Story 04

- 家づくりを物語に -



[中野市 / T 様邸]

余白の家

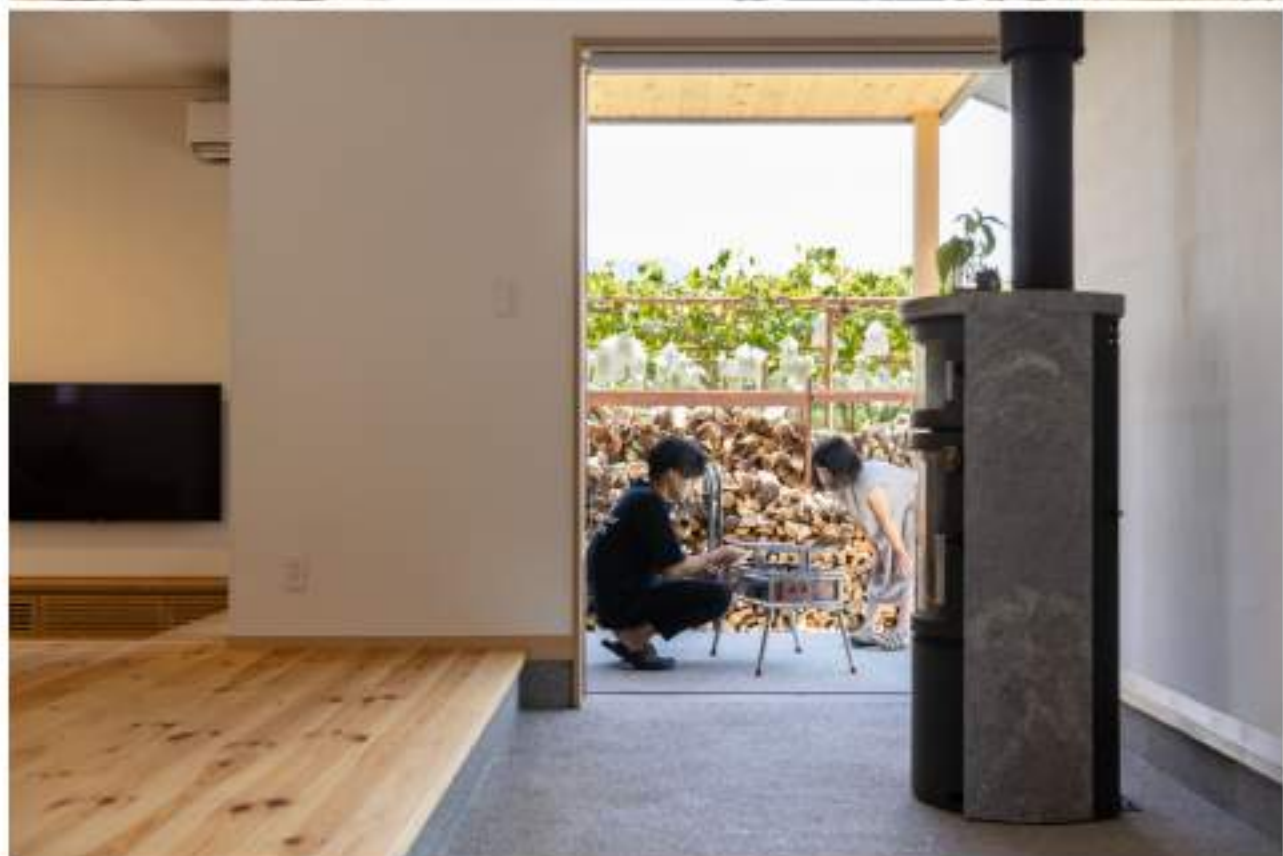
「使い方が決まったフツウの家にしたくない」
家に余白があるからこそ豊かな暮らしが生まれる。
コンパクトな平屋でありながら
家族が日々、思い思いの場所でくつろぐことができる家。

柱や梁を現し天井も一部板張りに。
木と建蔽土のバランスが良い空間。

予め置く家電を想定し、最小限にまとめたキッチンまわり。冷蔵庫脇には、大きな食品庫も備える。

CUBE型キッチンだから、家族が
キッチンを自然と囲み集まる。





メリハリのある意匠。南東のブドウ畑に向けて開口を大きくした。土間サロンのからプラットフォームにつながるテラスは、BBQをしたり創作菓きの合間にお茶を飲んだり使い勝手が良い。薪を運び入れる動線も抜群。



キッチン背壁の棚はクリ材。お気に入りの小物やキッチンツールが並ぶ。(上)
リモコンは可愛らしい小さなニッチ棚に収めた。我が家だけのデザインにも愛着が湧く。(中)
室内干しができるランドリールームは、自当たりの良い南面に。そのままデッキに出て外干しもできる。家事動線の良いさも、平屋ならではの。(下)



owner's voice

元々はこの場所にあった実家の敷地をリフォームして暮らしており。不便はないものの、どこかアパートに住んでいるような感じがしていました。たまたまふらっと見に行った長野中央展示場の土間サロン。夫婦共に気に入ってしまい、思い切って建替えを決意しました。

具体的なオーダーは2つ。平屋であること。今の25坪より。もっと小さくても良いと思っていました。なるべくシンプルでミニマルな暮らしを目指していました。もう1つ、家族みんなで料理ができるCUBEキッチンを入れること。「2LDK、ダイニングテーブルやソファを置く」というようなよくある間取りは嫌だったので、「フツウの家、使い方が決まった家にしたくない」とだけ伝えてプロにお任せしました。担当スタッフはむしろそれを喜んでくれて様々な面白いプランを提案してくれました。家族が思い思いの場所に腰かけ、くつろぐことが出来る空間が気に入っています。広い土間サロンや二段下がりリビング空間も「使い方を決めていない」ので、それが余白のように感じ、自由に過ごせるのが楽しいです。唯一のオーダー、CUBEキッチンでは子供たちと色んな話をしながら料理したり、薪ストーブのオープンでパンを焼いたり…

この家で“おうち時間”を満喫しています。





土間サロンは南側の開口をぐっと抑え地窓のみに。リビングとの経差にもこだわった。土間からリビングに上がるにも負担が少なく、暑がけて過ごすにもちょうど良い高さに設定した。(左上)

「ビットリビングにゴロンとなりふと見上げると、真っ白な壁なんだけど、なんかカッコいいと思う」と美穂が話す。平屋ワンフロアでも、段差が詰めて空間が単調にならない。(右上)

平屋ならではのロフトスペースは、2人の娘さんの場所。秘密部屋のように美しい。(下)





ロフトスペースとの行き来には、梯子ではなく階段をつくった。大きな荷物を運ぶのにも安心感がある。コンパクトな平屋だから、家族がどこに居ても気配を感じ、コミュニケーションが取りやすい。

竣工 2021年10月
 敷地面積 310㎡ (46坪)
 延床面積 340㎡ (51坪)
 家族構成 夫婦・子ども2人

Home with a Story 05

- 家づくりを物語に -



[南信州／H様邸]

キャンプするように人生を遊ぶ

東に南アルプス、西に中央アルプスが望める
お気に入りの景色に、テントを張ったような外観の平屋。
夫婦の描く「小屋っぽさ」を、フォルムや素材で表し、
小屋ではない伸び伸びした暮らしができる家。



黒色の天然土を混ぜた
ジョリパッド仕上げ

ウッドデッキとフラットにつながる大
きな窓から、南アルプスを眺める。

薪ストーブはAGNI-CC。背面の板
張りにブルーステイン材を使用。



大きな窓を設けて光をたっぷり取り込むキッチン。使い慣れたギアが並び、キャンプで使うものを家でも使う。ものが少なくて済むので色味的。[上]リビングの大きな掃き出し窓の先には、ご主人が自ら手摺けた10畳を超える広さのウッドデッキ。南アルプスを眺めながらの休憩タイムが格別と満喫。[下]

玄関正面の壁も赤松のブルーステイン材をつかい、印象的に。玄関脇には大きなシューズクロークを設けた。(上)
 アカマツの壁にハンモックを吊るし、愛犬と一緒にくつろぐ。(中)
 洗濯、干す、たたむ、収納がスムーズにできるランドリールーム。壁には水に強いワラを使用。近くにはWCもあり、洗濯動線がワンフロアで完結するのも平屋の強み。(下)



owner's voice

もともと愛知県に住んでおり、年に4、5回は長野県南部のキャンプ場に足を運んでいた私たち。山を下り、伊那谷の中へ身を置いてみると、南アルプスと中央アルプスがそびえていました。この南信州ならではの景色が格別気に入り、さっそく町の提供する移住体験へ。半年間で移住の気持ちも固まり、いつか家を建てるつもりで、仮住まいからスタートしました。

担当してくれた営業スタッフは、「普通の家だったら要らない」と考えていた私たちの思いに寄り添って、土地探しからサポートしてくれました。私たちが描く「小屋っぽい」家。自然の中に身を置き、自然との一体感を楽しむキャンプのような暮らしを実現するのに、土と近い平屋はマストだったように思います。

家にも景色に溶け込むような要素をたくさん取り入れ、外壁の板張りもその一つです。また、本物の木、なおかつ県産材を積極的に使い、山を良くしているという考えにも共感しました。今は新しい家族（バーニーズ・マウンテンドッグ）も迎え、毎日キャンプしているような感覚で過ごしています。



タープを張ったように屋根がかかる平屋で、広いデッキ部分はテントの居室みたい。第2のリビングとして積極的に活用できそう。(上)
天井はサワラ、柱はヒノキ、梁がアカマツ、床がカツマツ。すべて長野産材を使用。(中)
長コーナーはモダンな雰囲気に。室からは中央アルプス南部の山々を望む。(下)





土間サロンには、夫婦共通の趣味のキャンプギアを置いた。フィールドに出るとさも帰ってきたときも楽ちん。床がコンクリートなのでギアのメンテナンスにも好都合。ブラックの色味に仕上げた板通りの壁に、DIYで棚を設置した。

竣工 2021年11月
敷地面積 500㎡ (751坪)
延床面積 353㎡ (529坪)
家族構成 夫婦・犬

Home with a Story 06

- 家づくりを物語に -



[原村 / N様邸]

八ヶ岳の森に暮らす

野鳥のさえずりに誘われ、ウッドデッキへ。
ジョウビタキが軒に巣をつくり、卵が生まれヒナが育ち、巣立っていった。
森に溶け込む暮らしの中で、自然の美しさやありがたみを感じる日々。

リビングの斜天井はスギ板張り。
空間デザインに変化が生まれる。

森に向かい大きく開く窓。
四季折々の変化を楽しむ。

ビットリビングに造作のL字ソファを。
食事の空間とくつろぎの空間をほどよく
分ける。

ビットリビングから更に一段
下がる土間サロン。土に近く
森に溶け込むような感覚に。



こだわりの造作キッチン。松本市の家具工芸・アトリエm4制作。松本屋
 示場のCube型キッチンを参考にしつつ、オリジナルデザインに。
 カウンター側の引き出し中にはワイングラスが並ぶ。グラスの高さに合わせ
 てサイズをオーダーした。



スクリーンを下ろせばいつでもホームシアターが楽しめる。ソファとの距離感や、窓枠にピッタリ合うスクリーンサイズまでこだわり抜いた。スピーカーも4台設置し、音に包み込まれるような体験も。(上)土間サロンには薪ストーブを、すぐに庭へアクセスできるので、薪の運搬にも便利。(中)ヒノキの板張りが美しい浴室。メンテナンス性も考慮し、浴槽のまわりはタイル張りに。(下)



owner's voice

私たちは、家を建てるのが目的ではなく、そこに住んでからの暮らしや人生を充実させたい、と強く思っていました。退職後の日々も見据えた暮らしのイメージが明確にあり、それを実現するために原村の森に移り住み、平屋の住まいを建てました。

暮らし始めると、近くに鹿が出たり、庭をタヌキが歩いていたり。野鳥のさえずりがとても近く、毎日聞けるのも癒されます。ジョウビタキが軒のくぼみに巣をつくり、子育てをして巣立っていったのも見届けました。巣立ちの日には感慨深かったですね。しっかり自然の恵みを感じながら暮らせる。良い土地に出会えたと思います。

夫婦ともにお酒が好きで、様々な場面で楽しんでいきます。来客も多いので、みんなでワイワイできるようオープンなキッチンにしました。キッチンに立っていると、友人も自然にカウンターに座り、ワイン片手に話が弾みます。休日は主人がお寿司を握ったり、天ぷら職人になったりするので、カウンターでおもてなしを受けるのも楽しいですね。ホームシアターにもこだわり、視聴距離や窓枠に合うスクリーンサイズまで計算しました。ここでもワインを片手に、大好きな映画を演習する時間が最高です。





平屋でも華やかな空間にならないよう、土間サロン、ビッドリビング、ダイニングキッチンに緩い段差を設けた。森に向かい段々と低くなり、自然との一体感を感じる。(上)
 ゲストルームは時に書斎、時に室内平しスペース。ハンモックに寝られるくつろぎ空間にも。家中どこからでも森の音が楽しめる。(中)
 夏場の新緑づくりも冬の美しみに繋がっている。ご近所さんが寝トラを貸してくれて、薪運びを手伝ってくれるそう。そんな交流も宿州ならでは。(下)





風雨に濡れ込む行まいを意図した外観。アクセントに、ダークブラウンの横張りを施した。落ち着いたカラーは周りの木々と調和する。深い軒下には、縁側のように使えるウッドデッキを。

竣工 2023年11月
敷地面積 540㎡ (181坪)
延床面積 395㎡ (119坪)
家族構成 夫婦

Home with a Story 07

- 家づくりを物語に -



【東御市／H様邸】

田園にひらく家

田園風景に惚れ込み、この土地に暮らすことを決めた。
目の前で作られた新米、土鍋で炊き上げるご飯は格別に美味しい。
移住をしてから家庭菜園を始め、試行錯誤する日々。
信州での毎日が楽しい。

A photograph of a family of three—a man, a woman, and a young child—sitting on a light-colored wooden floor in a bright, modern interior. The man is sitting on the left, holding the child on his lap. The woman is sitting on the right, looking towards the camera. Large windows with wooden frames are in the background, offering a view of a rural landscape with fields and hills. A guitar is visible on the far left. The room has a warm, minimalist aesthetic with light wood and white walls.

リビングと土間サロンの窓の高さを揃えている。ロールスクリーンの目隠しもこ
だわり。

南の大きな窓に、一目見て気
に入った田園風景を映す。

土間サロンに置いたアウトドア
チェアに座ると、リビング床と
高さが合い居心地が良い。

床は赤松の無垢材。
素足で気持ちが良い。



キッチンを中心に廻る丸廻り。広々とした空間で狭さを感じないため、3人一緒に料理をすることも多く、家族で過ごす大切な時間になっている。(上)
ご夫婦が並んで在宅ワークをする書斎は、障子を設けず半個室に。窓越しに田園風景を眺めながら快適なリモートワークが叶う。(下)



キッチンがPanasonic。三連コンロと奥行の広さにこだわり、強い関心も拔群。ご主人は1日中キッチンに立つことも増えたそう。(上)

シンプルな空間に浮かぶ太陽灯は、ご家族が選木ツアーで選んだもの。景色を眺めながらハンモックロウに集中。(中)

リビングと庭を繋ぐ土間テラスに階段。田園風景を眺めるゆったりとした時間。庭や畑を気取りに行き来できる便利さもある。(下)



owner's voice

元々は東京で、その後は妻の実家がある埼玉のマンションで子育てをしていました。ちょうどコロナ禍で夫婦共に在宅ワークに、リモートで仕事ができるのに、わざわざ都会の狭いマンションに居る必要がないのではと思い、地方移住を考え始めました。新幹線で埼玉や東京方面へアクセスしやすいエリアが良い、御代田町や佐久市の土地も調べていましたが、人気エリアだけあって、ピンとくる土地は無く…。そんな中出会った工房信州の家。土地ツアーの中で東御市を紹介してもらい、この土地に出会いました。平屋が建てられるだけの広さとこの景色。即決でした。

一番のお気に入りにはキッチン。広々とした空間は3人で料理をしても狭さを感じないので、家族で過ごす大切な場所になっています。家を建ててから私(ご主人)は特にキッチンに立つ時間が増えました。試行錯誤中の家庭菜園で採れた野菜をそのまま使ったり、目の前の田んぼで作られた新米を購入し、毎日土鍋でご飯を炊いたり。キッチンに立つ時間が想像以上に楽しいんですね。リビングと一体感があるので、料理をしながら妻と子どもが遊ぶ様子が見えるし、さらにその先に広がる田園風景を眺めるのも最高です。





コンパクトで可愛いフォルムの薪ストーブは「AGNI HUTTE」。土間部分と炉壁はライトグレーのタイル貼り仕上げ。直でBBQをするときにも適宜する土間空間。(左上)
 スッキリと整理されたWC。たくさん収納スペースをつくるのではなく、本当に必要なものだけが置けるように考えられている。(右上)
 造作の洗面コーナーはシンプルながら、タイル貼りや丸い鏡でセンス良くまとめられている。(下)





せっかく信州に家を建てるなら、平屋を。平屋が建てられるだけの広さとこの景色に惚れ込み即決した。シンプルな住まいと暮らしに風景が映える。

竣工 2020年6月
敷地面積 922㎡ (354坪)
延床面積 876㎡ (264坪)
家族構成 夫婦・娘さん

あなたの
家づくり物語を
一緒に。



www.kobo-shinshu.com

◇他にもたくさんの実例をHPで公開中！

工房信州の家



株式会社 フォレストコーポレーション

〒396-0027 長野県伊那市ますみヶ丘7352-1

- 掲載の実例に関する情報は、取材・撮影時のものです。
- 印刷のため、実物とは多少異なる場合があります。
- 掲載の写真には、一部標準仕様以外のものが含まれる場合があります。

◇SNSで動画も公開中！follow me♪

